

塩谷福祉会 3 か年計画（令和 7～9 年度）

理事長 川原静雄

令和 7 年度から始まる 3 年間の事業方針を次のよう策定する。

	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
① 利用率の安定化 経営の安定化	複数年にわたる赤字運営により、弱体化した経営状態を改善する。特に利用率を安定させ、3 年間で 1 ヶ月分（約 1800 万円）の運営費を法人本部が維持できる状態を目指す。（将来的目標は 3 か月分）		
	利用率の安定化を図るためアピール活動とサービスの質の向上を図る。	法人全体の利用率 90%を目指す。	運営資金 1 ヶ月分を達成する。
② グループホームの集約と規模の適正化	精神障がいの特化した支援を充実させるため職員の支援体制を再編成する。点在化するグループホームの集約を行い、効率的でかつ必要な支援を行えるように体制を整える。10 数人規模の集合住宅を市内に整備しさらなる集約化を計る。		
	立地条件の悪いグループホームの集約のため集合住宅を探す。	定員は現状を維持しながら卒寮者や高齢化に伴う増員を図る。	集約化の達成をみて支援体制の評価を行なう。
③ 次世代を見据えた職員採用。安定して支援ができる体制づくり	人員体制の確保のため採用計画を立て、次世代を見据えた組織体制づくりをおこなう。中堅職員の不足を補うための採用や育成に力を入れる。職員体制を安定させ、法人全体が連携してサービスを行えるよう組織の強化を図る。		
	人員体制の確保のため常勤職員を採用する。 職種に応じた研修の機会を設け、質の向上を図る。		次期組織体制につながる継続的な仕組みを確立する。
④ 高齢利用者へのケアの充実、地域生活者への支援の充実	高齢化した利用者の日中活動の場を充実させる。また、活動支援センターの機能を充実させ、地域生活の支援と潜在化するひきこもりの方へ必要な支援を行えるようにする。		
	市内中心部でのサービス資源を改善するための物件を探す。	物件の取得を目指し予算を立てる。	サービスを評価し、継続的なサービス体系を作っていく。
⑤ 塩谷地区資源の充実（青葉への委託事業）	法人設立期の目標として語られた「公園化計画」・「ふるさとの山」を実現するべく、メンバーが憩い・湯される居場所、さらには地域に開かれた場所を創造する。		
	ルピナス祭の継続 （一般公開、地域との交流）	ガーデニング・小動物園等展開の検討 （社会貢献活動）	近隣学校・社協等関係機関と連携し、土日の施設開放 （社会貢献活動）